



秋の実り（白旗）

うたごよみ 神無月

〔短歌〕

米納三雄選

亡夫宛に今だに届く郵便は賞金獲得今がチャンスと
森田 房恵

炎天に涼を呼ぶがに咲き揺るるうす紫の「伊勢の花火」は
内田乃武子

暑き日の暮れ行く庭の賑わしく蝉の合唱絶ゆることなし
井上ユリ子

築に落ち跳ねとぶ鮎を掴まんと手足踊らす孫ら愛しも
上村 かず

暑き夜はまだ明けざれど蟋蟀は秋告げて鳴く涼しげに鳴く
吉永由紀子

歩かねば歩けぬものと知りながら歩けぬわれは足踏み鳴らす
本田 隆章

処暑過ぎても猛暑の続く日々なれど耳を澄ませば蟋蟀の鳴く
上村やす美

日々続く心の重き事ばかり髪など切りて軽くなりたし
内山タミエ

夏休みに初めてお泊まりせし孫はまた成長の貯金をしたり
緒方 明美

球児らの白球を追う活躍を厳しき暑さ忘れて見入る
赤星 延子

老いふたりインターネット・パソコンも知らずに居れど生きてはいける
塚原 暁益

熱中症その他事故死の後絶えぬ日々のニュースに安泰祈る
本田富美子

神楽舞う農夫の顔の深き皺七十年の陽と土香る
渡辺 幸士

〔川柳〕

〔台風〕

台風が進路を変えてひと安堵
楠井タヲル

台風一過瓦屋バイトの数を増し
北 仁子

台風情報旅のプランは見合わせる
坂口 政子

台風の月が替われれば暴れ出し
福田 清子

〔鼻〕

鼻詰まり花粉症か風邪なのか
伊豆野ヤエ

そんな事関係無いと鼻にかけ
緒方 瑞枝

鼻っばしら強い女は嫌われる
道上キヌ子

へし折ってやりたい奴の鼻柱
林 雅之

〔地酒〕

一泊の宿の地酒を飲み残し
内村 邦炎

同窓会地酒で乾杯夜もすがら
布田 愛子

地酒酌む老友今年も一人減り
成松 松枝

旅先の風土で変わる酒の味
古閑チヨミ

酒と米だけはふるさと産にする
渡辺 幸士

〔俳句〕

菰の花しらじら夕暮早くなり
田端 慶子

半夏生推敲の窓の遅々として
楠本 美鶴

病む夫の食事進まぬ残暑かな
本田サツ子

足早やに過ぎゆく日々よ稲穂出づ
本田 信子

売声の後尾長引き稲田道
堀田 孝恵

蛸の声聞く庭に一句あり
古田 幸子

漁火や晩夏の一と夜を蘇峰の間
高田れい子

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎096・234・1111（内線321）

birth お誕生おめでとう

| 住所 | 氏名 | 性別 | 保護者 |
|-----|-------|----|------|
| 横田 | 田上 了鳳 | 男 | 真 了平 |
| 田口 | 山田 泰雅 | 男 | 泰 志平 |
| 下横田 | 嶋中 隆伍 | 男 | 志 力郎 |
| 府領 | 木村 友紀 | 女 | 力 次 |
| 西寒野 | 山本 稀羅 | 男 | 信 高 |
| 緑町 | 堀田 奈奈 | 女 | 志 高 |

marriage ご結婚おめでとう

| 住所 | 氏名 |
|-----|-------|
| 芝原 | 興野 嘉宏 |
| 熊本市 | 緒方 明菜 |
| 津志田 | 小松 直也 |
| 津志田 | 山田 瑞恵 |
| 早川 | 跡部 慶太 |
| 熊本市 | 井上 仁子 |
| 西寒野 | 有村 幸洋 |
| 熊本市 | 西田 直美 |

condolence お悔やみ申し上げます

| 住所 | 氏名 | 年齢 | 世帯主 |
|-----|--------|----|-----|
| 白旗 | 岡本 長利 | 81 | 時 子 |
| 糸田 | 楠 富美子 | 93 | 富美子 |
| 早川 | 大隈 文江 | 92 | ヨ シ |
| 船津 | 井元 洋夫 | 74 | フ ミ |
| 中横田 | 田上 里美 | 86 | ミ チ |
| 岩下 | 立藪 ミサヲ | 90 | ミ サ |
| 東寒野 | 赤星 春雄 | 91 | 春 雄 |
| 府領 | 本田 秋春 | 73 | 秋 春 |
| 麻生原 | 片岡 静 | 94 | 征 一 |
| 早川 | 本村 恵子 | 74 | 正 巳 |

Data 甲佐町の人口・世帯数

| 項目 | 数 | 増減 |
|-----|--------|----|
| 男 | 5,408 | 11 |
| 女 | 6,139 | △4 |
| 計 | 11,547 | 7 |
| 世帯数 | 4,186 | 6 |

平成22年8月31日現在

(町史編さんだより)

緑川は甲佐に住む者の心の河である。町史では「緑川編」特集を組む。緑川は三方岳に源をもち全長76kmの長さ、流域面積は11000平方キ。本流には46もの支流が流れ込み、主なものは御船川(37km)、浜戸川(31km)、加勢川(17km)、津留川(15km)などがある。流域内では凡そ50万人が生活している、歴史的には何回も洪水にみまわれ水害が頻発する反面、各時代に水利事業が施工され、豊かな耕作地が出来上がった。緑川の源は、元禄2(1689)年の辛島道珠「肥後名勝略記」という本では「矢部郷菅村目丸村の辺より流出する川なり」とある。宝永6(1772)年の井沢蟠龍の「肥後地誌略」では、「南郷菅尾の郷河の口村の内

緑川の源流付近にある「穿ノ窟」(山都町)



穿の窟の辺より流出して、内大臣川と鬼の城の辺にて合流する。緑川と名付く。一説には其源日向の国より出るともいふ。として「日向」(宮崎)とのつながりをいっている。江戸期の地誌の集大成ともいえる「肥後国誌」では次のようにいふ。「緑川南郷河ノ口村穿ノ窟

ノ辺ヨリ流れ出、鬼力城邊ニテ内大臣川ト流合シ緑川ト名ク」さらに本文には次のような傳えがある。「中原雜記云緑川ノ水源ハ南郷緑ノ神殿礎ノ間ヨリ流出、緑宮ハ古百合若大臣ノ鷹緑丸ヲ崇タル宮也、緑丸ト稱スル鷹今山中ニ居ルトアリ、又或説ニ緑川ノ源ハ山

甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(25)～

緑川編・総論

町史編集委員 島津義昭 (原始・古代)

間湖ノ如ク宏大ニシテ近傍ニ行難シ是ヨリ、三派ニ流レ一流ハ日州耳川ト號シ、同國耳津ニテ海ニ入ル、一派ハ日向ニ出ヨリ當國ニ入り球磨川ト號ス、一流ハ此緑川也ト云、水源大ナル藤アリケル是其藤葛風ニ随テ水上ヲ塞ク故ナリト世俗古ヨリ云傳」と不思議な話を書き、緑川の源流についての人々の関心を伝えている。源流近くにある「穿ノ窟」は江戸期から有名であったらしい。古くは細川家10代当主斉茲の命により書かれた矢野良勝、衛藤良行「領内名勝図鑑」(原題「御領内山川之景」)にも写實的に描かれている。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編集係
☎096・234・3310

編集後記

新聞のテレビ欄を見て、「近ごろ、めっきりテレビを見なくなつたな」と思い始めて久しい。どのチャンネルも、同じような「お笑い」番組。俗にバラエティと呼ばれるが、どれもバラエティに富んでいない。笑つことガストレス解消で健康の秘訣と言われ、とにかく「お笑い」が世の中にあふれている。

特集での「おしゃべり広場」のおばあちゃんたちの輪に入り楽しく過ごしたことで、少し笑うことへの見方が変わった。楽しいことや面白いことはもちろんのこと、昔の悲しいことや辛かったことも、おしゃべりしているうちになぜか不思議と笑い話になって、いつの間にかみんなで心から愉快に笑っていた。きつと元気で長生きする本当の秘訣は、笑つことそのものではなく、どんなことでも笑つて過ごせる心なのだ。(一)